



# 園だより

令和3年5月27日  
佛教大学附属幼稚園

「仏教保育 6月のねらい」

生命尊重

「『いただきます』からはじめる生命尊重」

園長 佐藤和順

附属幼稚園の周りの木々も緑を増し、園庭の雑草も雨が降るたびに根強く伸びているように感じます。本来であれば好季節のはずですが、例年より早い梅雨入りとなりました。入園・進級して2ヶ月が経ち、園児たちも園生活に慣れ、雨が降らなければ外で、雨が降っていれば室内で元気いっぱい活動しています。

さて今月の保育目標は「生命尊重(せいめいそんちょう)生きものを大切にしよう」です。自分の生命を大切にすることと同様に、他の人間および人間以外のすべての生物の生命を大切にすることは、幼児の情操に大きな影響を及ぼすことです。各自で充分心がけたいものです。

今年度、佛教大学教育学部の4年生が、園でさとうきびを育てています。さとうきびはイネ科サトウキビ属の植物です。さとうきびは温暖な気候のもとでよく育つため、日本では沖縄県や鹿児島県の南西諸島で主に生産されています。さとうきびはとても丈夫。強風で倒れても起き上がり、また水不足にも比較的強いいため、自然環境が厳しい地域の生活を支える作物として欠かせないものになっています。栽培の目的は、栽培の北限を探ること。これまで大阪府での実績はありますが、成功すればさとうきびの丈夫さが一層証明されることとなります。年長児もプランターにいろいろな野菜を植え、栽培しています。子どもは、当番で水やりを行い、作物の成長を楽しみにしています。

また、園庭の隅では、だんご虫やアリ、いろいろな虫を探している子どもの姿が見られます。捕まえた虫は飼育ケースに入れ、図鑑で調べたり、飼い方はどうすれば良いのか自分達が知っている知恵を出し合います。時には、力が入りすぎ、潰してしまうこともあるかもしれません。そのような事を経験しながら手加減すること、力加減を学んでいくのです。

このように子どもはいろいろな遊びや生活、動植物の飼育栽培を通して、小さな人間以外の生き物の生命に出会い触れ合い、不思議さを感じ、他者へのいたわりの心や思いやりの心を育てていきます。

「生命尊重」は難しく大きなテーマです。

まず身の回りのものを大切にすることからはじめたいと思います。毎日の食事の中で、大切な生命をいただいていること、“もったいない”について家族で話すことから始めてみてください。子ども達が生命の大切さ尊さを知り、情操豊かな子に育ってくれることを願っています。

